

政治のあり方と日本企業の行方

キッコーマン(株)取締役名誉会長 茂木 友三郎

- *失望に変わった政権交代
- *「影の内閣」も生かされず
- *マニフェストにこだわりすぎ
- *政治主導に誤解、党内ばらばら
- *民主党の失敗から学ぶ自民党
- *40代半ばの人たちに勝つ味を
- *事後チェックと敗者復活の必要性
- *ベンチャーが生まれやすい環境に
- *すべての企業が競争する覚悟を
- *役割發揮が成長戦略をうまく活かす



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は長らくキッコーマンのトップをされて、今、名誉会長をされている茂木さんにおいていただきました。醤油をアメリカで売り込み、工場をつくり、今は100カ国でビジネスをされているということでございます。昔から経済同友会、その他で論客として知られておりますし、政治の世界にも非常にお詳しく、今日は日本の政治のあり方を中心にお話しいただきます。

それから、日経新聞に「私の履歴書」を連載され、それが立派な本になりました。たいへんいい本でございますので、ぜひお買い求めいただきたいと思います。それでは茂木さん、よろしくお願いたします。（拍手）

茂木 ただいまご紹介をいただきましたキッ

コーマンの茂木でございます。

今日は、「政治のあり方と日本企業の行方」というたいへん難しいテーマをちょうだいいたしました。これから1時間前後お話し申し上げ、その後、ご質問やご意見を賜りたいと思っております。

ご承知のように昨年12月に総選挙がありました、その結果、自民党が政権に復帰したということ。安倍晋三内閣が誕生しました。総選挙では、自民党に国民の期待が集まったというよりも、国民が民主党に愛想を尽かした結果、自民党が勝ったということだと思います。

それでは、なぜ民主党が国民に愛想を尽かされてしまったのか。総選挙は2009年にもありました。そのときは昨年の総選挙と結果がま